

## 会長就任にあたって

松下 幸雄\*



昭和 17 年 9 月 東京帝国大学工学部冶金学科卒  
 昭和 17 年 9 月 東京帝国大学講師 (第二工学部)  
 昭和 22 年 1 月 東京大学助教授 (第二工学部冶金学科)  
 昭和 32 年 3 月 工学博士 (東京大学)  
 昭和 35 年 5 月 東京大学教授 (工学部冶金学科鉄冶金学講座)  
 昭和 55 年 4 月 定年退官, 東京大学名誉教授, 日本鋼管(株)顧問

昭和 45 年 4 月 日本学術振興会・製鋼第 19 委員会委員長  
 ~現在

昭和 53 年 4 月 日本鉄鋼協会副会長  
 ~ 55 年 4 月

本会依論文賞, 協会事業功労賞, 西山賞, および日本金属学会功績賞, 谷川・ハリス賞受賞

このたび、私は今春の本会第 67 回通常総会において、新しく会長に選任されました。これは、私にとって大変光栄なことではありますが、一方において、重大な責務を伴うことを痛感せざるを得ません。それは、70 年になんなんとする本会の輝かしい伝統を踏まえ、より一層の発展の道を会員諸兄とともに探らねばならないと考えるからであります。

本会は、その定款が示すとおり、鉄鋼に関する学術と技術の研究を通じ、わが国鉄鋼業の振興に寄与する責務を課せられております。幸いなことに、先輩諸氏と会員諸兄のご尽力に支えられ、これまでの本会の実績は十分その責務に込えているといえましょう。しかしながら、今日わが国を取り巻く国際情勢は誠に冷厳であり、ことにわが国の経済を支える鉄鋼業にかかる社会的責任はますます重くなつてゆくとされます。私は、会員諸兄のご支援を期待してこの厳しい環境を直視し、それにこたえる産学協同研究、情報活動、標準化事業などを実行するとともに、国内外の関連学協会との交流を深めながら、本会が国際化社会でのわが国鉄鋼業の発展に寄与できるように願つてやみません。

会員諸兄がすでにご承知のように、本会は基本的には、企画、研究、編集の三本柱で運営され、延べ 130 名にもおよぶ役員、委員の方々と当該事務局がそれぞれの実務を遂行しております。これらの方々の日夜を分かたぬ献身的な努力と連携プレーが本会事業を支えていることは申すまでもないのですが、多岐にわたる運営機構の拡充強化には、たゆまぬ前進とともに、折にふれて反省と点検が必要であります。それは、本会が会員全員のためにあるものであり、全員の協調によつて先に述べた本会の責務が結実すると考えられるからであります。

本会は、大変幸せなことに、維持会員各位の絶大なご好意で活動の基盤が支えられておりますが、学会活動の基本構成員は個人会員でありますので、今後なお一層、外国会員も含め会員増に努力する必要があります。申すまでもなく、鉄鋼業は人文、社会、経済、理工学すべての学術基盤の総合によつて発展するからであります。

以上をもつて、この機に私の所感の一端を申し述べましたが、再度会員諸兄のご支援をお願い致します。

\* 本会会長, 東京大学名誉教授  
 本稿は去る 4 月 2 日開催の本会第 67 回通常総会における会長就任の挨拶を収録したものです。